本大会の開催にあたって

九州還暦軟式野球連盟
長崎県理事　　岩　佐　　正

九州還暦軟式野球選手権大会が、19回目を迎えました事に大変喜ばしく、これまで歴史を経てきたのは九州還暦軟式野球連盟の努力の成果であると言えましょう。

以前は全日本還暦軟式野球連盟に登録の九州チームは、特定の県を除いて僅かに少なく、西日本大会や全国大会に包括されていました。そこで野球の盛んな九州で独立した大会を持つべきだとの発想から発足したのが『九州還暦軟式野球連盟』でした。

当初は全日本還暦軟式野球連盟加入のチームは少なく、九州で独立した連盟を組織するには様々な困難がありました。そこで全還連未登録チームの加入も加えて連盟の形を整えたのが、現在の九州還暦軟式野球連盟であります。

九還連主催の第１回大会は大分県三重町に、九州８県から５県の８チームが参加して開催。第２回の佐賀県大会では長崎、沖縄の２県が初参加の16チームによる大会となりましたが各県２チーム割り当てを果たしたのは５県で、不足したチーム数を登録数の多い県から補充する形で組み合わせ表ができました。

初参加した長崎県からはアイケン医院クラブと対馬やまねこクラブの２チーム参加することができましたが、宮崎県と初参加の沖縄県は１チームの参加でした。

その後、第９回大会に鹿児島県が初参加して九州８県代表チームが出そろい、真の九州還暦軟式野球連盟が確立し、各県持ち回り開催が本格化しました。

長崎県では第４回大会を対馬市で、第11回大会を佐世保市で開催し、今大会が対馬市で二度目の開催となります。このように九還連の歴史には様々な困難を乗り越えて各県が連盟の維持や発展に寄与してきたかが想像できると思います。

しかし、これだけの発展を遂げてきた九還連をここまで支えていただいたのは各県や各地域の軟式野球連盟があることを忘れてはなりません。大会運営や審判団の献身的な協力等を得たことは事実であり、大会の記録やその保存にも努力の跡が見て取れますし、大いに学ぶところもあります。

全日本還暦軟式野球連盟は全日本軟式野球連盟の傘下にあり、各県および末端支部組織の在り方を十分に認識し、今後も更に全還連および全軟連を支持し、協力関係の維持と発展に務めていかなければならないことを思い、ごあいさつといたします。